

# 幼い難民に未来を



発行：幼い難民を考える会 〒150 東京都渋谷区広尾4-3-1 TEL 03-499-1226 ●振替口座 東京1-36227



子どもたちにカンボジアの伝統や文化を伝えるための布絵の一枚。教材セットの一つで、耐久性をもたせるため紙ではなく、布にしている。この絵はカンボジアの結婚式を描いたもので、ハサミで今までの厄を切り落とし、新しい門出を祝うという。

## 国内活動の一層の充実を!

第三国への定住率が年々減っているタイのカオイタンキャンプで、タイ政府の要請に応じて、各国とも大幅に定住数を増やすことを決定しました。そのための面接は、この夏から秋にかけて行なわれ、日本にも100人前後のカンボジアの人たちが来春ごろ定住する予定です。

幼い難民を考える会にとっても、これからますます国内の活動の重要性が増すことが予想されます。今回は何人かの会員の方に、今後の国内活動の方向を話し合っていました。

—今まで、あるいはご自分の活動を通して感じたこと、考えたことをまずお聞きしたいと思います。岡田さんは、家庭教師をなさっているんですね。

岡田 え、2年ほど前から、カンボジアの中3の女の子二人と、高3の男の子の勉強をみています。この三人は20歳と23歳ですが、若い人が日本に来て学校へ入っても、年齢相応の学校ではないので心を割って話せる友だちが見つけにくいとか、いじめられるという問題があるようです。就職への門戸も、国がもっと



岡田知子さん  
学生

開いてくれば良いと思うんですけど……。

後藤 日本は難民に限らず、外国人にとって住みにくい国だとよくいわれますが、でも、果たして私たち自身は、それを変えるような努力を



後藤今日子さん  
ひまわりの担当  
学生

しているのかという疑問だと思っ  
て居るんですね。それにはまず実態を知ら  
なければならぬし、どうすれば  
もっと暮らしやすくなるかは日本人  
が考えなければならぬことだと思  
うんです。個人でやるのは限界がある  
んで、こういう仲間ややっていくのが  
いいと思うんです。

松岡 私の友だちに中国の留学生  
がいますが、難民でなくとも、知ら  
ない国に住むには、初めのうちは何  
らかの援助が必要でしょうね。まず  
言葉でしょ、それから少し生活に慣  
れて仕事を始めるにしても、どこで  
どうやって探せばよいかわからな  
いわけですから……。何かのときに  
相談できる人やシステムがあるとい  
うと思うんですよ。

山崎 キャンプで働いていたカン  
ボジア人が日本に定住しているの  
で友人として付き合いきたんですが、

それだけでいいのかなと考え始めて  
いるところです。

というのは、キャンプという何も  
かも制約された所から、日本のように  
モノが豊かな国に急にきて、初めの  
うちは定住できたことだけで喜んで  
いるんですが、だんだん仕事や住む  
所に不満が出てくるんです。ほかの  
恵まれた定住者の話を聞いて、どん  
どん上を見てしまうんです。上を  
見ていくのは自然なことだし、当然  
のことだとは思いますが、一見  
とても豊かに見える日本の中にも、  
失業者や住宅に困っている人がいる  
んだということも認識したほうがい  
いんじゃないかなと……。



山崎尚枝さん  
84年5月現地  
スタッフ  
看護婦

#### 家庭の主婦への働きかけを

——自立のための援助というのが、  
会の方針でもあるわけですが、定住  
をした人に対して具体的にどんな援  
助が考えられるでしょうか。

小倉 私も山崎さんと一緒に、カ  
ンボジア人の家庭を時々訪ねていま  
すが、その就学前の子が、あまり  
日本語を話さないんです。幼稚園に  
行って日本人の子と遊べれば、日本  
語にも、日本の生活にも早く慣れる  
と思うんですが、有料ですしね……。  
就学前の子どもに何かしたいと思  
うんですが、具体的な考えはまだ……。

それから、家にずっといる専業主  
婦は、外で働いている人や、学校に  
行っている子どもと比べて、外との  
接触が少ないのでとり残されている  
部分じゃないかと思うんです。外に  
出ないから日本語が覚えられない。  
子どもはどんどん日本語を覚えて母  
国語を忘れてしまう。そうすると親  
子のコミュニケーションもできなくな  
ってしまいます。その辺で、家にいる  
主婦にも何かやっていけるんじゃない  
かと。

岡田 言葉だけじゃなくて、精神  
的にも若い人はどんどん日本人化し  
てしまうんですね。大人のほうは、  
昔からの考えから抜けだせないけど  
……そういう意味でもギャップが広  
がって、トラブルが起きるみたいで  
す。外国に比べ、とくに日本では、  
日本人化したほうが暮らしやすいと  
は思うんですが、そうさせてしまう  
日本の閉鎖性も考えたほうがいいん

#### 国内活動 私の意見・提案

☆定住した先輩が後輩の世話がで  
きるのが理想

秋沢ヒロ

定住促進センターで、3か月間日  
本語や日本の習慣等を学んで退所し  
てから、1~2年間が最も援助が必  
要だと思います。この間にひとりで問  
題を解決できる力と自信をつけてあ  
げることが大切です。そのためには  
経済的自立がなによりですが、もし  
自立していなければ、彼らの力でど  
こまで可能か見極める確かな眼が必  
要でしょう。定住した先輩の人たち  
が、後輩の世話もできることが理想  
ではないでしょうか。

☆生活相談と、生活に役立つ情報の  
パンフレット作成を

高橋あつ子

1.カンボジアの人を頼み(有給で)  
週に一度、決まった曜日と時間に事  
務所で生活一般の相談に応じる。相  
談員は一人とは決めずに柔軟に。  
2.今すぐ役立つ生活事項のパンフレ  
ットを、視覚に訴え、マンガ風に活  
字を少なくして発行する。例えば、  
生活習慣あるいは価値感の違いから  
生じた失敗談とその対処の仕方など。  
生活に慣れるまでに一番困ったこと  
を定住者に聞きそれに基づいて作成  
する。

☆日常生活のためのあらゆる援助  
が必要

二橋那美子

経済的自立のための援助と、日常  
生活のための援助が必要だと思いま  
す。後者は、子どもの教育から、生  
活一般の習慣の違いからくるトラブ  
ル、医療関係、心の問題——カルチ  
ャーショックによるストレスなど、  
ケースワーク的援助からあらゆるも  
のが必要だと思えます。

CYRとして何ができるのかよく  
わかりませんが、私個人としては語  
学、カウンセリング、ケースワーク  
的なものを考えます。

じゃないでしょうか。あんな素晴らしいものを持っていた人たちのにもつたいないなという気がするんです。——今までタイでやってきた保育園活動を、国内でも生かせないかなと思うんですが……。



司会・菅尾正乃  
事務局

**小倉** インドシナの子どもたちと日本の子どもたちが一緒に遊んだり、学んだりできる保育園というのは、実際には難しいと思うんです。国内の場合、インドシナの人たちが住んでいる地域はバラバラですから。

お母さんたちに日本語を覚えても



小倉雪枝さん  
74歳 現場  
スタッフ  
保田

らうにしても、教え込むというのではなくて、子どもと一緒に何かやりながら自然に覚えていくというのがいいと思うんです。

#### まず知ることから

**後藤** 私が小さい頃、親子で参加する地域の活動があったんです。親子でゲームをしたり、一緒にお菓子や料理を作ったり、育児の話をしたり……。そういうことが、インドシナの人たちと日本人で月に一回とか定期的に交流会のようなものが持てればいいんじゃないのかと……。

**松岡** それはいい考えね。何かを始めてみて向こうの人の意見を聞くのも大切ですね。私たちが良かれと思っていることが、必ずしもインドシナの人たちにとって必要なことかどうかわからないわけで、どういう部分で私たちが関わればいいのか、積極的に意見を汲み上げることを、まず始めたほうがいいかもしれませんね。——今まで何人かの方から出たように、対象は子どもとお母さんと考えられますね。でもまだ何が必要とされているのか、私たちはきちんと把握していない段階にいるわけですから、まずその辺を知ることから始めてはどうでしょうね。インドシナの人たちが何家族か集まっているアパ



ートを訪ねてお話を聞くとか。

**後藤** 話を聞きに行きたい人を会報で募集してもいいんじゃないですか。

**松岡** では声を聞くこと、知ることから始めてみましょうよ。



松岡玲子さん  
CYR理事

#### ☆事務局から

今回は時間の都合で、国内活動についてごく一部の方のご意見を聞くことしかできませんでした。みなさんのご意見、ご提案を是非お聞かせください。

また私たちと一緒に、定住者の問題を学び、実際に関わっていききたいと思われる方はどうぞお声をかけてください。お待ちしております。

#### 国内活動 私の意見・調査

##### ☆定住者のニーズ・希望の調査、検討が先決

栗野 鳳

どんな援助が必要かという点については、まず定住者に直接照会、調査するべきと思います。また、定住者に対する援助を実施している民間団体間のヨコの連絡が、必ずしもよくないように見受けられるので、調整、少なくとも情報交換をすることが望ましいと思われます。

市民のレベルでは、普通の市民同士の交際を深めていくことが重要です。その交際の中で、援助すべき点もわかってくるでしょう。

##### ☆母国語で電話相談ができるようなシステムを

石井じゅん

日本での生活が長く、事情のわかっているインドシナの人たちに相談員になってもらい(仕事として)、それぞれの母国語での電話相談ができるシステムがあればよいと思います。これらの相談の中から、定住者がどんな悩みを抱えているかがわかり、私たちが手助けできる部分もわかってくるはずですよ。

これはCYRとしてというより、民間団体が協力してやることだと思いますが。

##### ☆定住者が集まることのできるセンターを

三島佳子

援助活動の核となる施設をつくるのはどうでしょうか。定住した方々が気軽に來れて、集会を開いたり、悩みごとを相談できる場になると良いと思います。また母国語で会話のできる職員がいて、役所や学校の手続きなど日常生活の手助けができる機能があるとよいでしょう。

この施設は外部に対する広報活動も継続的に行ないます。けれど基本的には定住した方々の希望を聞いて、それに応じて行うべきでしょう。

# 希望の家レポート



## ●洋裁教室で二つの試み (3月)

今まで洋裁クラスの練習課題は、子どもや若い人向けのシャツ、ブラウスのミシン縫いが多かったのですが、3月から新しく手縫いの上下服(綿ローン)と老人用ブラウス、シャツ(インド綿)を取り上げました。仕上がりは、手縫いと素材がうまく合って柔らかい手触りとなりました。ミシンを使うことができない状況でも、練習が基礎縫いだけでなく、形のあるものになっていくのは、洋裁クラスの生徒にとっても張り合いのあることです。

## ●教材配布後のアンケートまとまる (6月)

3月にカオイダン・アネックスへ教材を37セット配布しましたが、それがどのように使われているのか、保護者にアンケートをとりました。

その結果、ほとんどの子どもたちが教材セットをよく使って遊んでいることがわかりました。特に布や籐で作ったボールや、人形を好んで使っているようです。教材を使うようになってから前よりよく遊ぶようになったと答えた人が9割。明るくなったり、楽しそうにしていると、子どもが変わったという人も9割以上いました。

教材セットを使うことによって、子どもの遊びに広がりが出たことがうかがえます。



## 厳しくなった検問

閉鎖の話もあり、最後になるかもしれない定住のための面接も、各国内にも年内には終わる予定です。行き先が決まり明るい顔の新KDと、未来が見えず落ち込んでいる今までのKDとで、明暗がくっきり分かれているカオイダンです。

アランヤプラテートとカオイダンの間の検問が厳しくなっています。これは、七月初めに、ある団体が無許可で医療品をキャンプ内に運び込む事件があったためです。九月には、CYRが今までキャンプに持ち込んでいた炭の許可も降りなくなりました。このため、UNHCRから調理用に配給するゴムを木を分けてもらうことになりました。薪割りの手間がかかるものの、炭よりよく燃えると、評判はよいようです。

## ●天然のシャワーがこわれた!?

(7~10月)

今年は雨量が多いせいか、大工さんはあちこちの屋根修理に追われています。キャンプの子どもたちは雨が降り始めると歓声を上げ、裸ん坊になり、庭や軒の雨だれで狂喜乱舞が始まります。

雨の神様も、子どもの喜びように見とれて、シャワーの調節を忘れていたのでは……。



天びん水汲みで遊ぶ女の子

## ●サイト2のワーカー、CYR見学 (9月)

避難地の一つであるサイト2から保育者14名がCYRの活動の見学に来ました。保育園では、お互いの教材も見せ合いました。その中でも、竹で作った天びん水汲みが、クメールの生活に根ざしたおもちゃで楽しいので、早速CYRの木工部門に作ってもらいました。

ミルクの時間に、子どもたちがピッチャーからミルクをコップに注ぎ、それを運び、バスケットを配っている様子がとても身につけているのを見て、驚きの声も聞かれました。

\*KD=カオイダンカードの略。このカードがあると食糧の配布と居住の許可のほか、第三国定住のための面接を受ける権利を得る。

## 国境はいま

## ◆難民キャンプの閉鎖・統合すすむ

この4月、タイ国内にある3か所の難民キャンプが閉鎖されました。タイのほぼ中央部にあったシキウキャンプと、南部のソクラキャンプに居た合わせて3700人のベトナム難民は、キャンプ閉鎖のため、バナニコムへ移されました。バナニコムは、第三国へ定住が決まった難民の一時滞在施設と、定住がまだ決まらない難民の施設に分かれていましたが、最近ではこの区別もあいまいになったようです。

また、東部にあったラオス難民のウボンキャンプも閉鎖され、340人がマンナボとチェンカムへ移されました。

インドシナ難民と避難民を約37万人も抱えているタイ政府は、今回の難民施設の統合を、管理の負担を軽減するためと第三国定住の促進を図ることが目的だと発表しています。

## ◆自治活動が活発な避難地

1984年9月から1985年にかけて、タイ・カンボジア国境の難民村に住む人々はベトナム軍の砲撃を受けタイ領に避難しました。現在9か所の

避難地に約24万人が生活しています。彼らは国連から「難民」と認定されていませんが、人道的な立場から UNBRO (国連国境救援機関) が食糧配布、医療、保健公衆衛生、教育援助を行ない、13の民間団体がその活動にあたっています。

5歳以下の子どもは人口の3割の7万人。1985年から妊婦と子どもにドライパックスの補助給食が配布され



補助給食の配布を待つ人々  
写真提供 JVC

始めたので栄養状態はかなり向上してきました。

各避難地には難民の行政機関があり、自治活動が活発です。行政機関の一つ KWA (クメール女性連盟) は女性のために識字教育、織物、洋裁、編み物、豆腐、しょうゆ、もやし作りを行なっています。

母親が識字教育等に通う6か月の間、子どもを預かる保育園も開かれ

ています。CYRは1984年から国境の保育活動にも協力を続け、教材セット320、保育の手引き、育児の手引き、カンボジア語の絵本400冊を配布しました。

この教材セットの使用状況、保育の様子、女性のプログラムを見学するために、CYRは7月に国境避難地の一つ「サイト2」を訪ねました。

サイト2には五つの避難村があります。その一つノンチャン村の保育園には午前8時～12時まで、3歳～5歳児約100人が通っています。

保育時間は約30分単位で区切られ、歌、話、身体を動かす遊びなどが行なわれています。各クラスでは竹と木で作ったパズル、人形などと一緒に CYR で作られた教材セットも使われていました。

今年から、CYRの教材はKWAの保育者養成でも利用され始めています。

## バンビナイはいま

## ◆保育園が充実している印象

タイ北東部、ラオスに隣接するバンビナイ難民キャンプは、政変後タイに逃れたラオス難民のために1975年12月に開かれました。小高い

丘陵地にあるキャンプはタイ内務省に管理され、約4万人の難民が UNHCR から住居、食糧の配給を受けています。多くの家では野菜や家畜を育て、通りの店には果物、雑貨、手工芸品などが所狭しと並んでいます。

CYRはほかのキャンプでの保育活動を見学するため8月にバンビナイを訪ねました。14の民間団体が医療、教育、技術訓練を行ない、2団体が保育を行なっています。ESF (仏の団体) の4つの託児所には、300人の子どもがいました。母親が識字教育、洋裁を習う6か月間、子どもを預かっているのです。ESFの病院には、子どもの遊び場もあり、シーズン、ブランコの遊び道具があります。この遊び場を見て、自分たちの近く



バンビナイにはモン族が多い

にも同様の遊具が作りたいたいと思えば、ESFに資材の提供を頼めるそうです。まわりの大人の自主性に期待し、地域に根づいた保育を目標しているのはESFもCYRも同じようです。

アメリカの団体ICAが開いている保育園には4～6歳の子どもが約300人通っていました。来年には、この保育園を新たに数か所開く計画があるそうです。

明暗くつきりの  
キャンプ

定住のための面接を受ける人々。

かおんだん  
かわる版

## 帰国ボランティアの 忘れもの

福岡県  
北九州市



河村好美

この6月の半ば、約2年間の現地活動を終えて日本に戻りました。初めから2年間の予定で現地での活動に参加してきたのですが、なにかしら中途半端な思いの残る、何か忘れものをしてきたような、そんな思いがくすぶっています。

何を忘れてきたのか……？ 言葉の壁を乗り越え、やっと心が通じ合うようになった人々なのか？ あるいは、タイやカンボジアのゆったりした時間の流れなのか？

いいえ、それは初めからそこに在った

もので、の中に私が居させてもらっただけのことです。忘れてきたものは、私の心かもしれません。

日本に戻って、ふっとすべてが真っ白に見えるときがあります。整然とした街並みやバス、電車、管理のいき届いたスーパーマーケット、何かしら溶け込めない冷たさを感じます。そんな時、私の心はキャンプに飛んでいきます。

タイには、キャンプには、まず土があり、緑があり、そして人々が暮らしています。人々が（人工ではない）自然の秩序の中に暮らしています。

現地での生活で、私の中の何かが変わったのでしょうか。土の上を歩き、木の家に住み、自然の風に吹かれ、土においのする野菜を食べていたからでしょうか。体の細胞一つ一つが変わり、ついには感覚までもが変わったような気がします。

毎日が、反省と緊張そして希望の連続でした。それでも私の心と体は

“自然”の状態に近かったのかもしれない。

今、コンクリートの家に住み、アスファルトの道を歩き、不自然にきれいな野菜を食べる生活の中で、私の中の何かが化学反応を起こしそうです。土と緑と人間を求める心が、コンクリートと鉄と人工食品の生活の中でさまよっているようです。ノ

## ベトナム料理を 習って

東京都世田谷区 溝口恵美

私の母は惣菜の会社で働いています。常々、何か新しい料理がないか探している母に、エスニック料理を習いたいんだけどどうにかならないか、と聞かれました。幼い難民を考える会に相談したところ、国際救援センターで通訳をやっているベトナム人のドトン・ミンさんを紹介していただき、奥さんのグエン・チ・

かえた泣き方であり、悲鳴のように思える。そういう子どもたちに対して、小児科医はどう対処すればよいか考えさせられた」と述べている。この本を読むと、現在の病気は身体だけの病気だけではなく、心と実社会とのズレ（例えば親子・家族のつながりの薄さ、学校教育の成績のみの価値判断やその為におこる個人の無視、希望喪失、欲求不満等）が心の病となり表われている事を実感するし、そのほとんどの犠牲者が子どもであることが考えさせられる。

産業発展の中で流行にのり、便利さ、つめこみ知識、体裁などに惑わされ、本質が見えなくなっている今、本質、すなわち人間から逃げないでそれに取り組み、問題に対しての自分の姿勢をみつけないければならない、そんなことを強く感じた一冊である。

6



大阪府豊中市  
内田直子

## 子どもたちのカルテ



大宜見 義夫・著  
メグサイエンス社刊  
1,100円

この本は、日本アップジョン株式会社の医師向け月刊紙「スコープ」に4年間連載されたエッセイをまとめたものである。

著者はかなりの冒険家である様で、250ccバイクに乗り一人でシルクロードを旅したこともある小児科医で、小児心身症・小児喘息に取りくんでいる人である。

この本の舞台のほとんどは、著者が生活している沖縄である。今でこそ観光地となり多くの人々の関心の的だが、そうなる前の沖縄に対し、人々はどんな感情をもち、どんな態度をとってきただろうか？ 今なお多くの問題を持ち、その問題が様々な形として表われていることが、この本の子ども達の様子からもハッキリとうかがえるが、これに加え、今の時代、表面的にみても難民・被差別部落・人種・受験戦争などの深刻な問題がある。この本は、そんな問題からでてくる様々な子どもの症状を医者之眼を通して問題提起をし、彼なりの解決法を述べている。

あと書きの中で、彼が提起したいくつかの事例に対し、「子どもたちのこれらの訴えは、自分の感情や言葉を表出できない子どもたちの、形を

「難民」という存在が私に与えた影響は大きく、私のものの見方、考え方を変えました。それまでは八方ふさがりだった私に、問いを与えてくれ、指針を与えてくれました。その問いと指針を頼りに、これからは、私のできる範囲で難民問題に関わり、私自身の生活を築き上げていこうと思います。

ミン・ハーさんから料理を教えていただくことになりました。奥さんは妊娠中で、バンちゃんという息子さんもいるので大変忙しかつたのですが、4月の末から週1回ずつ6回、1回2～3品のペースで、ベトナム料理を教えていただきました。

私と母とおばの三人で料理の作り方を教わり、実際に作ってみました。その後の試食会では、楽しく雑談をしながら大変おいしい料理をいただきました。

おばは「ベトナムの人達が実際食べている味のまま教えていただいたのがとてもよかった。あとからアレンジする場合にも、元の味を知らないといけないから。今でも、うちで、牛うどんを時々作っています。印象的だった料理は、泣きピーフン（すごく辛くて涙が出てしまうため）です。春巻の皮が、水に浸しただけでできるとは思っていなかったもので、初めて見た時にはとても驚きました」

母は「オイル、塩分が控えめ目で、香辛料をうまく使っていておいしく、健康によい料理なので、日本にもどんどん広がってほしいと思っています。ご紹介くださりましてどうもありがとうございました」と申しておりました。

お陰様で今、母の会社でエスニックサラダを商品化して、デパートで販売させていただいております。本当にありがとうございました。

## ひまわりコーナー

### 〈宜野座さんの帰国報告会〉

7月26日のひまわりは、1年間の任期を終えて帰国なさった宜野座江理子さんの現地報告会でした。

現在、保育園には1日2回のクラスに約400人の子どもが通っています。子どもたちは沐浴やミルクの時間以外は室内や庭で自由に遊ぶことができます。教材はすべて木工部や洋裁部の手作りです。混乱期に育った若い保母・保父さんは子どもたち以上に遊びに熱心だ、という話が印象的でした。

園内に流れる子どもたちの明るい歌声とは逆に、キャンプ全体には閉鎖のうわさが流れ、落ちつかない様子だそうです。「キャンプ」という特殊な環境で、子どもたちはどのように育つのだろうか、また、CYRはどのように貢献できるのだろうか、と考えさせられた1日でした。

最後になりましたが、宜野座さん、ご苦労さまでした。また今度、カンボジアの歌を聞かせてください。

(後藤今日子/記)

### 〈カンボジア語入門パートII〉

8月23日、私達は鉛筆を片手にマーチとモッチの声を録音したテープを聞きながらカンボジア語に親しみました。

なんと今回は文字にも挑戦しました。手に汗をかきながら丸や涙、ひ



げの付いたクメール文字と格闘した後は気を抜かずにさっそく往復ハガキにも書いてマーチとモッチに送り、成果を見てもらいました。返事のハガキにはどんなことが書いてあったのでしょうか？ マーチとモッチどうもありがとう。(オークンチュラン)

\*今、カンボジア語を習っています。

アイラウニ クニョム カンボン  
リエーン ピアサー クマーイ。

\*早くカンボジア語を覚えてあなたとまた話して仲良くなりたいたいです。

クニョム カムリエン アオイ  
チェ チャップチャップ ダムバ  
イ トバアー マットピエップ  
ローピエン クニールヌクニール  
ナウ ベール クラウ。

『語学の道は1日にして成らず。』

(田中双葉/記)

なお、6月のひまわりでは深水利事事が昨年末カオイダンキャンプを訪れた際に撮影されたビデオを上映しました。また、9月には2か月の夏休みをカオイダンで過ごした大学生・岡田さんを囲んで、ごく最近のキャンプの様子やスタッフの宿舎があるアランヤプラテートでの出来事(お菓子事情を含め!?)を伝えてもらいました。

## 原稿いつでも大歓迎!!

テーマはまったく自由です。日頃気になること、思わずムカッとしたこと、誰かに聞いてもらいたいこと、会に注文したいこと、誰かの意見への反論・賛成、映画・本・講演会な

どのこと等なんでも。

横書き、16字詰で書いていただけると助かります。

字数は800字程度。(16字×50行)お待ちしております!

# CYRきのう・今日

## タイ・カオイダン

6月25～26日

保育園に通っている子どもに洋服教室で作った320名分の服を配布。

7月15日

国境の避難地サイト2を見学。

7月21日

クメールの仏祭日のため保育センター休み。この日は、修業のためお坊さんになる期間が始まる日。カオイダン内のお寺に、ワーカーたちは集めたお金で贈り物を、CYRからは寄付をした。

7月22日

一時中断していた、日本人スタッフのクメール語勉強会を再開。先生は21区の保育者。毎日30分間。

7月26日

木工部で作った教材7種30セットをUNBRO(国連国境救援機関)を通して国境の避難地(グリーンヒル他)に配布。

8月

昨年6月でいったん打ち切られていた保育園の高蛋白ビスケットのおやつが再開される。

8月16日

CYRワーカーで、5歳児以下の子どもがある家庭に教材を35セット配布。

8月19～20日

保育園に通っている子どもに洋服教室で作った402名分の服を配布。



9月22～27日

保育園の子どもの家庭訪問

9月30～10月2日

クメールの盆のため希望の家も休

み。キャンプ内の寺や劇場では催し物もあり、にぎやか。

## 国内

6月1日

目黒教会バザーで現地製品を販売。

6月5日

植田智加子、渡タイ。

6月28日

第22回月例会ひまわり。

7月3日

東京女子短大でCYRの活動紹介。

7月6日

河村好美、任期を終え帰国。

7月9日

松沢教会母の光グループにビデオを使いCYRの活動を紹介。お母さん方から熱心な質問が出る。



7月12日

植田智加子、タイより帰国。

7月12～13日

ユネスコ・コアアクション研究会に事務局参加。

7月19日

岡田知子短期ボランティアとして渡タイ。

7月22日

宜野座江里子、任期を終え帰国。

7月26日

第23回月例会ひまわり。

8月4日

小川由美、1年の任期で渡タイ。

8月16～31日

「地球サイズのボランティア 市民の国際協力活動展」にパネル展示で参加。

8月23日

第24回月例会ひまわり。

9月1日

土井圭子、遠藤美智子、1年の任期で渡タイ。

9月22日

事務局鈴木イツ、渡タイ。岡田知子タイより帰国。

9月26日

現地関口晴美、鈴木イツ、アフガニスタン難民キャンプ視察のため渡パキスタン。

10月4～5日

東京ボランティアまつりのバザーで現地製品販売。

10月5日

関西在住会員の第1回交流会。12名が参加し、グループ討論などにより情報交換も行なう。



10月13日

鈴木イツ、パキスタンより帰国。

10月26日

第14回バザー。連日寒空続きのなか穏やかな日に恵まれ1,710,119円の好収益を記録。



### ★年次報告書1986のお詫びと訂正

- リフュジーズ・インターナショナルはR.I. ジャパン(国際難民奉仕会)の誤まりでした。訂正します。
- 19ページ パネル展の開催に追加 幼い難民に未来を 5/20～5/24 香川・会員原田道子発起人 <編集後記>

カオイダン閉鎖のうわさの信憑性がかつかめないまま今年も終わりそうです。未来の見えない難民にとってどんな援助が必要とされるか次回で考えてみたいと思います。